

牛込神楽坂辺にフォーカス



「新板江戸外絵図 赤坂・麻布・芝筋・渋谷・青山・三田」 東京都公文書館所蔵

ここでは牛込神楽坂辺にフォーカスして「寛文五枚図」を詳しく見ていきましょう。図の右上「牛込」とあるのが牛込御門、外濠を渡りさらに広い道路を渡った道に短い線が書かれています。これは坂道の記号で、ここが神楽坂です。正確な図に武家屋敷所有者を書き込むため、「サイトウ」とカタカナにしたり、忠右衛門を「忠右」と省略したりといった工夫もされています。道路端やお濠端の■印が武家方が負担して設けられた治安維持のための辻番所です。

とにかく方角と縮尺の正確さを追求し、そこに人物情報も盛り込む絵図には、見た目の美しさはなく、とくに武家地では細かい文字だらけとなります。しかし、これが基礎となり五枚図の範囲を一枚にまとめた絵図が、道印自身のものも含めて相次いで刊行され、17世紀後半から大型一枚図の時代が始まっていました。